

縦割り学習での学び合いと生徒発案の家庭学習の習慣化 舞鶴市立和田中学校の実践発表

開催概要・舞鶴市立和田中学校 講師紹介

今回のセミナーでは、舞鶴市立和田中学校の教務主任 金子氏、特別活動主任 矢野氏、生徒会の代表生徒4名にご登壇いただき、縦割り学習での学び合いと生徒発案の家庭学習の習慣化の取り組みをご紹介いただきました。

登壇生徒（中学3年生）：佐藤氏，柴田氏，岡村氏，金川氏



教務主任/英語科
金子 かおり 氏



特別活動主任
矢野 泰教 氏

学校紹介

和田中学校は、京都府北部の舞鶴市の中舞鶴に位置しています。校舎は山々に囲まれています。西に300mほど進めば海が広がる自然豊かな地域です。学校からは近畿100景1位に選出された五老スカイタワーが見え、近隣施設には海上自衛隊や保安学校、舞鶴赤れんがパークなどの観光名所がたくさんあります。1小1中で、本校は全校生徒が100名弱という小さな学校です。一長一短ありますが、上下関係がほとんどなく縦のつながりがつくりやすいメリットを生かして、さまざまな取り組みを前向きに進めています。

舞鶴市立和田中学校 紹介



山や海に囲まれた、自然あふれる地域
舞鶴市唯一の1小1中である小規模校
生徒数 90名 / 保幼小中高連携 / 縦割りの文化

みんなの学習クラブの良さとは？

1点目は、生徒が自分で選んで学習ができる点です。例えば、勉強が苦手な生徒は、1年の問題まで戻って勉強できますし、その1年の問題から2年の問題にステップアップしながら成長できます。勉強が得意な子は、さらに次の段階に進むこともできます。

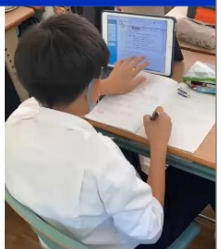
もう1点は書くことです。手は「第2の脳」と言われますが、書くことでいろんなことが定着すると思います。タブレットに書くもよし、ノートに書くのもよしということで、生徒はしっかりと書くことで学習ができているようです。

みんなの学習クラブの良さとは？

プリント作成の負担軽減
= 働き方改革

書いて学習できる

タブレットを活用して
自分で選んで学習できる



■ 登壇生徒から他の生徒へインタビュー「縦割り学習をしてみてどうでしたか？」

Q1. 縦割り学習を始めた理由は何ですか。どのような取り組みをしましたか。

1～3年生の縦のつながりを強めるために、この取り組みを始めました。取り組みの内容は1～3年生2人ずつぐらいでグループを組んで、3年生が1、2年生に勉強を教えるというものです。

Q2. 学習クラブがどのような場面で使いやすいですか。

iプリでは、入試問題を解いたり、発展問題を解いたりできるので、すごく力が身につきます。

Q3. 縦割り学習をスタートした時の友達や後輩はどんな様子でしたか。

初めは先輩に質問する時に少し抵抗がありましたが、その後の先輩の対応のおかげでいろいろな学年で、しっかりとコミュニケーションが取れていました。

縦割り学習のこれまでの実践と生徒の変化

■ 縦割り学習のスタートと先生から見た生徒の反応

体育祭で演技をする様子や学習発表会で歌っている生徒の姿を見て、行事で縦でつながるのはもちろん学習でも活かすことができないかと思ったのが、縦割り学習を始めたきっかけです。1,2,3年生にプリントを渡して、学び合いを始めたのですが、個人個人が黙々と学習して、全く会話が生まれえないなど、最初はどうもいきませんでした。次は、3年生が1,2年生に小グループで教える形式でしましたが、「自分たちの勉強ができない」と、3年生からはどちらかという和不評なスタートでした。一方、1,2年生は、「教えてもらって嬉しかった」という反応でした。学び合いを毎学期に2,3回行い、終わるたびにアンケートを取り、生徒の声を聞きながら、工夫をしてきました。テスト前を中心に行いますが、テスト前にすると、3年生が勉強できないという声もあるので時期・内容を今も試行錯誤しながら実施しています。

■ 先生がうまくいったと感じる縦割り学習とは？

教材によって学び合いが捗ったり、時期によって人間関係によってもうまくいくかは、やってみないとわかりません。今までで一番学び合いとして教師側から見て手応えを感じたのは、3年生は自分の学習をせずに、1,2年の学習するプリントを事前に答えと一緒に渡しておき、3年生は学び合いの時間までに、復習として学習し、当日、学習を教えていくやり方です。1,2年の復習ができるのと同時に、内容を理解しないと教えることができないので、自分で勉強をしっかりとるようになりました。1年生も教師に教えてもらうよりも、3年生に教えてもらう方が楽しいようです。



矢野氏

■ 縦割り学習によって、学びも気持ちも良い変化が

3年生にとって、学び直しのいい機会になっています。一回勉強するだけでは定着しないので、教えることで定着が進みます。子どもたちで夢中になってくると立ち上がる、または目線を合わせます。寄り添って「ここわかる？ どう？」と言いながら取り組んでいる姿を見ると、本当に学びが進んでいるなと感じます。1, 2年生も3年生に教えてもらい、勉強がわかるようになってきているようです。来年自分が3年生になって教えるかもしれないし、勉強頑張らなきゃという思いが強くなってきているように感じます。学びだけではなくて、人の為になりたいという優しい気持ちが芽生えているように思えるので、とても良い学習だなと思っています。



金子氏

■ 縦割り学習やタブレットの学習と紙の学習の違いを生徒はどう感じてる？

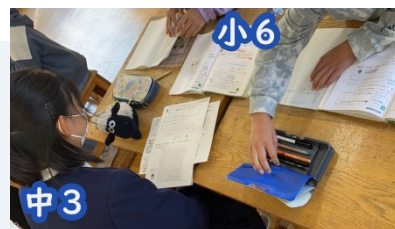
プリント学習の時は答えを取りに行ったり、勉強している途中でも教えにくかったです。みんなの学習クラブやタブレットで勉強することで、答えをすぐに確認できるし、その解説がすごくわかりやすく、その点では紙の学習よりタブレットの学習の方が使いやすかったです。（柴田氏）

紙の学習でもやりやすかったです。タブレットで学習することですぐに解説もわかるし、その意味をタブレットで調べることができるので、タブレット学習の方が便利だと感じます。（金川氏）

一人ひとりできる単元は違うので、自分の苦手なところの再確認や自分の得意な教科をさらに高めることができるきっかけにもなったと思います。（岡村氏）

■ 広がる縦割り学習～中3が小6に教える学び～

ここにいる生徒会の子たちの「小学生と一緒にやったらいいんじゃない」という一言から、スタートしました。人数の問題もありましたが、今の3年生は人に教えるのに慣れていたので、今度入学してくる6年生に中学校でこんなことをしているよと伝える意味も込めて、一緒に学習しました。（矢野氏）

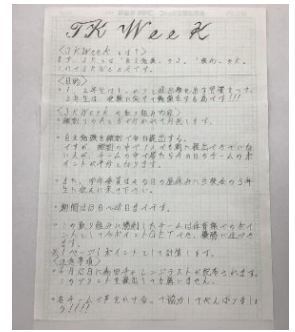


小学6年生に教えるということは、3年前でもう忘れていた単元もあり、自分がちゃんとわかっていないと教えられないなと思いました。この和田中の伝統でもある、幼稚園保育所からずっと一緒に歩んできた仲間だからこそできる和田中らしさがある取り組みだなと強く感じました。（佐藤氏）

JKWeek(自主勉強強化習慣)の取り組み

■ 生徒発案のJKWeek！生徒から見た他の生徒の様子

JKWeek（自主勉強強化週間）は、テスト前や体育祭がもうすぐで、体育祭も絡んでテストにも生かせるような取り組みがないかと、みんなで長い期間、考えてきました。いつもの勉強より、質を良くして量を増やそうと、ノートを1ページ1ポイントで、縦割りで白と赤で対抗して行なうことにしました。期間は2週間ほどで、勝利したチームは10ポイント分、体育祭のポイントに繋がるので、みんなのやる気を引き出せるような取り組みになったと思います。（柴田氏）

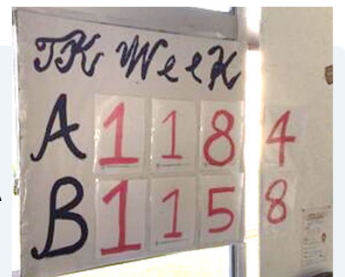


結果的にAチーム逆転勝ちで、みんながすごくやる気を出して白熱した勝負になりました。普段あまり自主勉強しない人にも責任が多くかかっているの、しっかり頑張っていました。（佐藤氏）

JKWeekを聞いた時は、体育祭につながるといっても、みんな本当にやるのかなと不安がありましたが、始めてみたら、体育祭は3年生は最後の行事なので、みんなやる気を出して接戦で、毎日点数を見るのがすごく楽しみになるくらい、いい取り組みだなと思っています。（岡村氏）

■ 先生から見たJKWeek

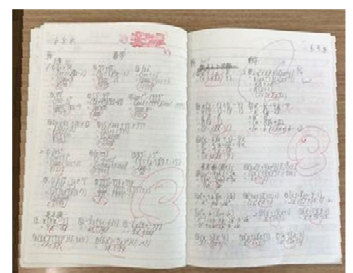
和田中の生徒の課題を生徒会専門委員会で話し合った時に「家庭学習をしない人がいる」と生徒から意見が出てきました。そこで家庭学習の取り組みをしようとなり、後は生徒たちで全部考えました。クラスごと、学年ごとにクラス対抗はよくありますが、1クラスしかないし、縦割りで競い合っても面白いんじゃないかという発想にもなってくれました。学年を超えて学習することで、先輩は後輩に情けない格好を見せられないし、1年生は先輩がやるから私たちもと、いい相乗効果を生んで、1000ページを超える取り組みになりました。生徒会の子たちが「発案したからやらない」と、率先して雰囲気を作ってくれたのも一つ大きな要因だと思います。（矢野氏）



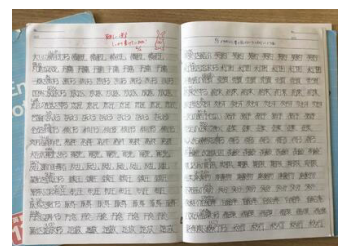
当時を思うと、本当にみんなが勉強をし出したなと思います。例えば、柴田君は団長をしていましたが、負けているので何とかしなきゃと、1日で70ページくらいをやりました。それも質がいいものをと、本当にいい学習をしていました。それが受験勉強にもつながったと思いますが、なんと夏休みに学校に来て、勉強を教えてほしいと、一緒に勉強もしました。やはり、何か自主的にする取り組みがきっかけとなって、次へのステップになるかなと思っています。（金子氏）

■ 質の高い、個性豊かな生徒のノート

ページ数を競う取り組みで中身はどうかと、生徒のノートを見ました。よくある漢字をどん！どん！と書いて1ページかなと思いましたが、想像以上に頑張っていて、それが嬉しくて、感動したのでホームページに掲載しました。もう一つは同じ教室で勉強しても、意外と友達の家学習ノートは見ません。どんな方法でしているかを学校に掲示物として紹介しても良かったんですが、私はインターネットとかホームページに上げることで、他の学校や先生方・保護者の方にも見てもらえますし、載るとまた頑張ろうと、さらにいい学習を見つけようと模索し始めると思います。学習方法の名前はもうオリジナルで適当に私が付けてるだけですが、いろんな学習方法を紹介しました。（矢野氏）



徹底型ノート（岡村氏）



反復型ノート（金川氏）

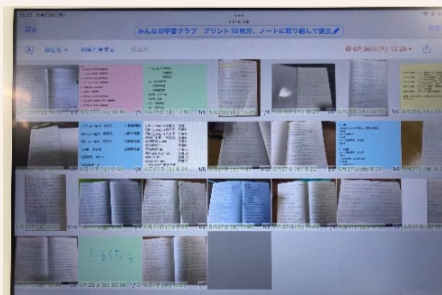
私は徹底型で学習しました。質もよく、量も多くしなければいけないので、大変でしたが、期末テストにも繋がりました。理科は暗記科目の単元でしたが、教科書の要点を先生がまとめるノートとは別に、自分でそのノートを作ることで、すごく理解度が深まって、期末テストに向けての勉強がはかどったなと感じました。（岡村氏）

私は反復型で学習しました。私は社会など暗記科目が苦手なので、自分に合った反復型でノートを作りました。みんなそれぞれ苦手科目が違うので、いろんな形でノート作りをしていました。（金川氏）

普段の家庭学習と長期休暇の課題

■ 各プログラムごとに生徒自身で選んで学習

生徒はみんな喋るのが好きで、英語の授業でもよく喋ります。ただ、正確には話せていないので、何かできないかなと思っていたときにふとプリも使ったらいいかもしれないと思いました。そこで各プログラムごとに、はじめはプリントを10枚、今はノート10枚分に変えて、課題を出しました。自分でできていないところに戻って勉強したり、先の学習をし始める生徒が出てきました。正確性も少しずつ、本当に上がってきてるなと感じています。（金子氏）



■ 長期休暇は学習メニューを配布し、ノート1冊分学習

生徒の学び方も学ぶレベルも違うので、自分で基礎から応用まで選んで学習ができたと思っています。何を勉強したらいいかわからない生徒もいるので、メニューを配布しています。Aメニューの基礎では、本文の単語を調べたり、一般動詞をたくさん集めるなど、家での学習と授業がリンクするように設定しています。Bメニューでは練習、Cメニューで発展的な内容に設定しています。1日ノート1ページ以上で、夏休みはノート1冊分で、普通のキャンパスノートに1冊してくる生徒もいます。本当に自分で選んで1冊頑張ってくれます。みんなの学習クラブのプリントで学習量が増えました。（金子氏）

項目	内容
1	単語を調べ、本文の単語を調べたり、一般動詞をたくさん集めるなど、家での学習と授業がリンクするように設定しています。
2	練習メニューでは、本文の単語を調べたり、一般動詞をたくさん集めるなど、家での学習と授業がリンクするように設定しています。
3	発展的な内容に設定しています。
4	1日ノート1ページ以上で、夏休みはノート1冊分で、普通のキャンパスノートに1冊してくる生徒もいます。
5	本当に自分で選んで1冊頑張ってくれます。
6	みんなの学習クラブのプリントで学習量が増えました。

▲ 長期休暇の学習メニュー

生徒の主体的な学びを引き出した「和田クエスト」

■ 「和田クエスト」とは？

最初は日常的な問いを見つけて、それを探求する取り組みでした。本格的に「和田クエスト」が始まってからは、私達3年生は「舞鶴を活性化させるために発信していこう」をテーマに、チームに分かれて取り組みをしました。舞鶴に多くある竹を使って何ができるかや、舞鶴のシンボルである五老ヶ岳をモチーフにしたケーキを作ろうなど、自分たちで全て考えて行動していきました。（佐藤氏）

■ 「和田クエスト」を通して見える生徒と先生の変化

「和田クエスト」で生徒が主体的になりました。自分たちで課題を発見し、解決のために何ができるか考えますが、失敗することいっぱいあって、ゴールにむかって果敢にチャレンジしていたので、計画性を持って取り組みが進められるようになりました。「和田クエスト」12個の指標を各教室にも掲示しています。「和田クエスト」だけではなく、教科の授業でも今日の単元は、発信力を高める授業となれば、先生方が[発信力]のカードを黒板に貼って、授業展開をするようになりました。総合的な学習が探究的な学習に変わり、先生方の授業も変わりつつあるように思います。（金子氏）



根底には生徒が楽しいこと、やりたいことをする姿を見たい気持ちがあります。教師側が引っ張ってあれこれ言った方が楽ですが、サーバントリーダーという言葉があるように、教師がグイグイ引っ張っていくよりも、生徒がやることを後ろから支えていくことが大事ななと思っています。全ては生徒が楽しそうな姿が見られるように、この和田クエストをまた進めていきたいなと思っています。（矢野氏）

先生だけでなく生徒の皆様からも学校の取り組みをお聞きできる貴重な機会となりました。ありがとうございました。アーカイブ動画 (<https://youtu.be/L3a9Qw5HFdE>) もぜひご覧ください。 →→→



株式会社日本コスモトピア 公教育課

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島4-9-28 TAIYOセンタービル
TEL : 06-6390-2100 (受付時間 : 平日9:00~17:00)
MAIL : gaku_mail@cosmotopia.co.jp

 
FOLLOW US
@gakukuracj

